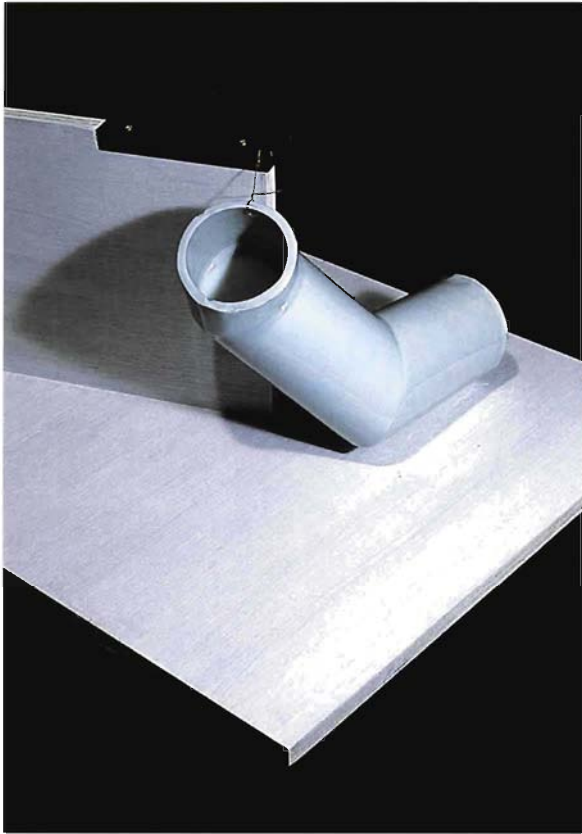


—コロンブスのうつわ—

卵の様に丸い底のうつわを、或いはそれ自体では絶対に立つことの無いうつわを立ててみたいという願望を、私は随分長い間持ち続けていた。その昔、立つ訳が無い卵を立ててみせたコロンブスの様に、後から考えれば「なんだ、そんな事だったのか」と思う様な一寸した工夫をすれば、その願いも不可能ではないと思っていた。

人間がうつわを作り始めてから高台を発見するまで、さほど時間はかからなかったであろうが、高台の発見は新大陸発見以上の大発見である。底が丸かろうが、尖っていようと、いかなる形で

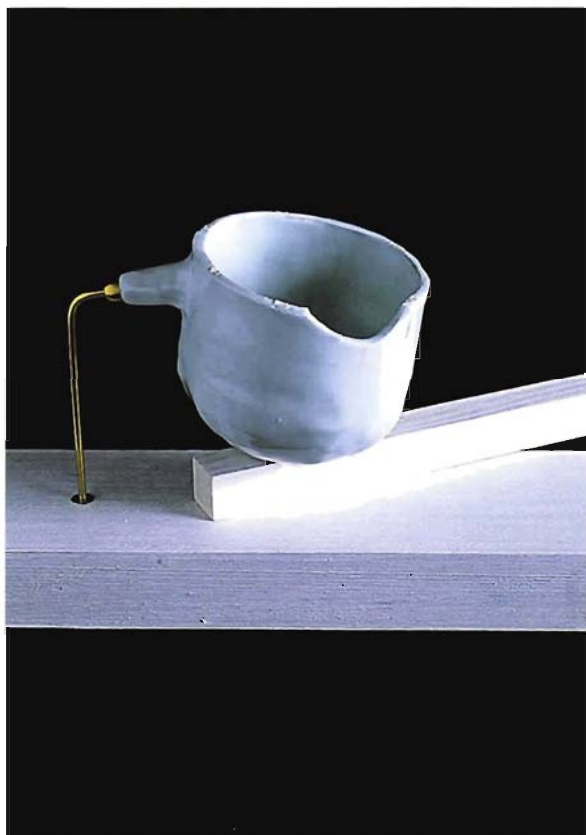


奈野 2 4 9

高 23cm

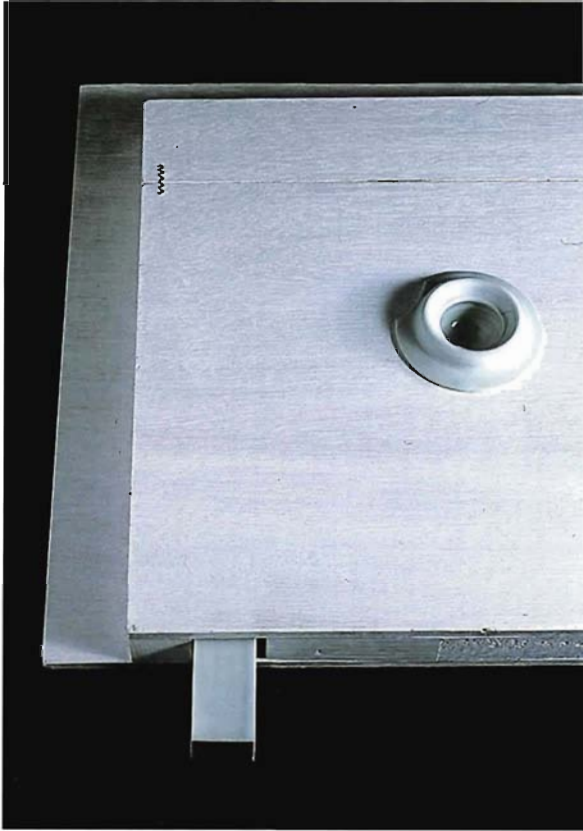
あっても高台の処置をすれば、すべて事は完了する。その当り前の高台を今一度取り払ってみるのも、新しいうつわの形状の発見に繋がるのではないか。うつわがどのような形態で立っているのか、つまり地球とどのような接し方をしているのか、延いては宇宙とどのような関係にあるのかを考えるのは、焼物屋に限らずモノづくりに係る者にとって、大変重要かつ興味のある問題である

茶会の大詰めに茶を呑み、茶碗の姿形を愛でた後、最後の最後に茶碗を裏返し、そっと高台を眺める。寡黙で控え目な、それでいて芯を持った高台は、茶碗を凜と立ち上げる。普段はとりたてて見ることのない高台に、実は造形の密意が隠されている様に思えてならない。



奈野 2 5 4

高 20cm



奈野 2 5 2

高 6 cm



奈野 2 4 7

高 15cm



奈野 2 4 6

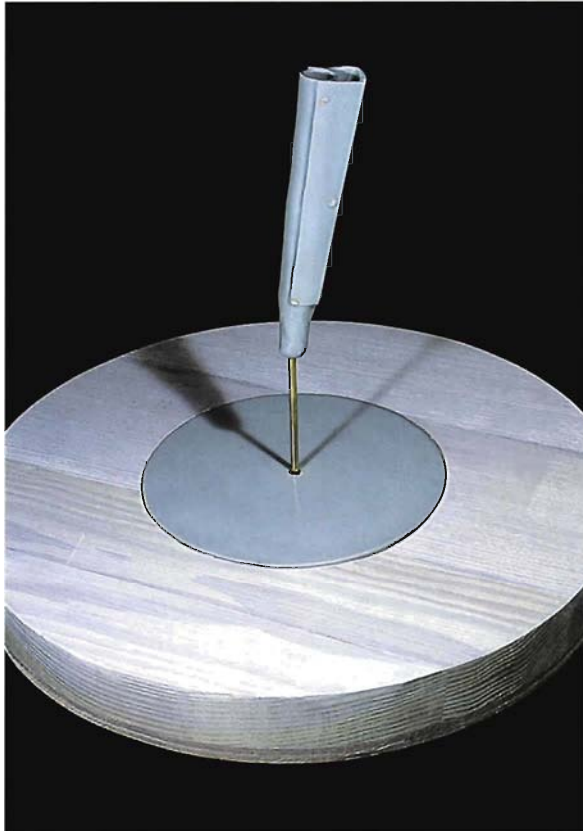
高 26cm

アートギャラリー

白 磁

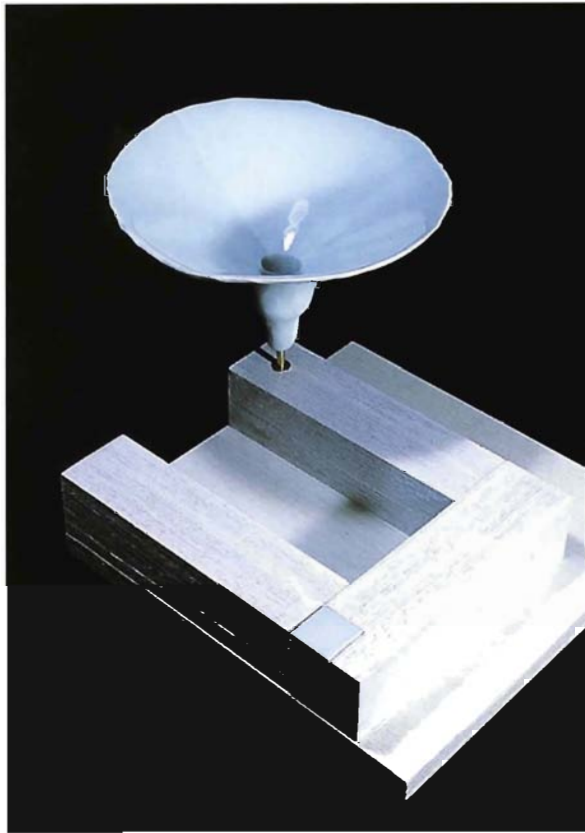
=コロンブスのうつわ=

石 田 成 昭



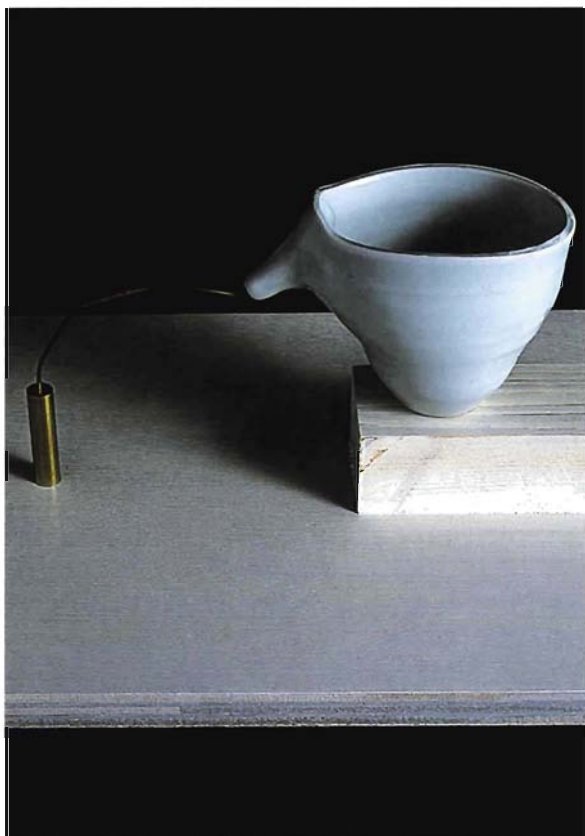
奈野 2 5 8

高 32cm



雑野250

高 20cm



奈野 2 4 8

高 16cm